

生きものと 教室の仲間たち

文部省選定



青虫のいのちも、ハムスターのいのちも、
そして僕のいのちも、みんなとっても大切なんだ。

「飛べ、3年3組のゴマダラチョウ！」

16ミリカラー／43分 280,000円

この映画は、小学校3年のある学級に起こった飼育係をめぐる一事件を中心にして、子供たちの成長の姿を描くとともに、「いのち」の大切さを訴えようとする児童劇映画です。

■この映画の利用の仕方

上映時間（43分）の関係から、学校教育の中での利用としては、特別活動の学校行事の中の「学芸の行事（学校映画会）」に位置付けて全校児童に視聴させることになるでしょう。（学校によっては、教育課程外の実践活動に位置付け、いわゆる「ゆとりの時間」の中で利用することも可能です。）

3年生の物語ですが、低学年から高学年までの全校の児童を対象にして視聴させてよいと思われます。

なお、特別活動の中の学級会活動の指導についての優れた示唆に富む映画ですから、先生方の研究会や父母参観日に利用されることも十分に考えられるでしょう。

○視聴前後の指導について

学校映画会の前における児童への指導として、特別な配慮は必要ではないと思われます。事前指導なしに視聴させても、すべての児童が容易に理解し、主人公たちに共感し、深い感動を受けることのできる映画だからです。

視聴後においては、児童相互に感想を話し合わせたり、学年によっては感想文を書かせて発表させたりすることが、感動の深化、持続、波及にきわめて有効でしょう。

この映画には、自由責任、協力、友情、勤労、思慮反省、生命尊重、敬虔などの多くの道徳的価値が含まれていますが、それらのどれかの価値に焦点を当てて指導することはむしろ避け、児童ひとりひとりの受けた感動を大切に、その自覚化を図る指導が望ましいと思われるます。

○学級会活動の指導に関して

この映画には、学級会活動の中の「係活動」と「話し合い活動」とが描かれています。視聴される先生方の中には、「この場面ではもっと指示を与えたい」「あの場面ではこんな指導を加えたい」などと考えられることがあるかもしれません。

しかし、映画の中の学級担任教師が、「児童の自発的、自治的な実践活動」を育てるために、あえて学級会活動の中では発言を控え、子供たちが「学級生活の中での自分たちの問題」を、たとえ未熟であつても能率が劣つていても、仲間と助け合つて自らの手で解決する日まで根気よく見守り続けたことは、きわめて大切なことです。

児童に任せることのできる「自治的活動の範囲」を的確に指導した上で、活動の中での教師の意図的、計画的な指導をできるだけ控えることによって、学級会活動（他の児童活動も）が育つものであることを十分に示唆する映画であると考えられます。

文部省初等中等局視学官 青木孝頼



■利用対象

小学校（低学年，中学
年，高学年）

■用途

特別活動（学校映画会）
子供映画会，親子映画
会，父母会，家庭教育
学級



■この映画は，都内の
ある小学校で，実際に
起こった出来事をもと
に作られた作品です。

■また映画の撮影にあ
たっては，市川市立八
幡小学校3年3組のみ
なさんのご協力をいた
だきました。

■スタッフ

製作……………村山英世
脚本……………塩田千種
……………内藤 誠
監督……………内藤 誠
撮影……………江連高元
昆虫撮影……………吉田嗣郎
照明……………高島利雄
記録……………渋谷康子
音楽……………杉田一夫
編集……………沼崎梅子
助監督……………石毛好夫
……………白石宏一
撮影助手……………宜保盛徳
……………山屋恵司
照明助手……………和田久雄
進行……………池上洋史

■ものがたり

二学期になって，生き物係になった哲や春彦たちは，克の持って
来たハムスターに大興奮。クラスみんなには，見せてもやらない
ようなかわいがりようだ。

そんな中で，おとなしい洋だけが，こつこつと人気のない青虫の
世話をしていた。

やがて3匹の赤ちゃんが生まれるが，翌朝みんな，あつけなく死
んでしまう。さっそく学級会が開かれ，無責任だと生き物係に非難
が集中した。とうとう生き物係の社長として，いばっていた哲をは
じめ生き物係はみんなクビになってしまった。

哲たちはそのはらいせに，自分たちで持って来た動物や巣箱を持
って帰ってしまう。洋の青虫だけが残り，あいかわらず洋は，青虫
の世話にいそがしい。青虫はなかなか見つからないエノキの葉しか
食べないのだ。

クラスから孤立した元生き物係のグループの中で，春彦たちは反
省して教室にまた動物を持って来るが，哲だけはどうしてもクラスの
仲間たちと仲なおりしようとしない。

しかし，病気で休んだ洋に代って，こっそりエノキの葉をさがし
てやったのはその哲だった。もちろん，クラスみんなには秘密だ。

そして一週間，さなぎとなった青虫が，いよいよ羽化する日が来
た。息をのんで見守る3年3組の仲間たち。やがて小さな黒いかた
まりが，ゆっくりとはい出て来る……。

その時，哲の脳裏に浮んだのは，死んでしまったハムスターの赤
ちゃんの姿だった。

精いっぱい生きるものの姿に心うたれた哲は，はじめてクラスの
みんなに素直にあやまることができた。そして，ゴマダラ蝶を大空
にはなしてやろうと，提案するのだった。



製作 **桜映画社**

東京都渋谷区代々木1-57-1 代々木センタービル
〒151 TEL 03(3320)6311 FAX 03(3320)7666

配給